

授業改善推進中期プラン 算数〔小学校第4～6学年〕

昭島市立 中神小学校

学年等		項 目	内 容
令和4年度第4学年	令和4年10月	学習に関する児童の実態・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・かけ算、わり算の筆算が苦手な児童が多い。 ・文章問題を読み取ることが難しく、立式できずにいる児童が見られる。 ・コンパスや三角定規などの算数道具の使い方が定着しておらず、上手に作図することができない児童がいる。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題では問題の意味を理解し、問題解決の方法を自分で選択できる力。 ・難しい問題でも、学習したことを活かして解決していこうとする力。 ・基礎的な知識を身に付けること。
		具体的な授業改善の方策	<ul style="list-style-type: none"> ・板書の仕方などを引き続き工夫する。 ・文の相互関係を常に意識するように継続して指導する。また、文章問題の内容を理解しやすくするためにテープ図をかかせる等の工夫を行っていく。 ・常に基本に立ち返り、指導していく。また、朝自習などの時間を利用し、基礎・基本の定着を図る。
	年度末	第4学年における児童の達成度と第5学年に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、基礎・基本の習熟を図る必要がある。 ・文章題について、相関関係をつかませるには、問題場面のイメージを明確にもたせる指導が必要である。児童の実態に応じては図表、絵、具体物なども準備し、イメージをもった後、相関関係をつかませる必要がある。
令和5年度第5学年	平成5年10月	学習に関する児童の実態・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項を活用しながら、答えにたどり着くまでの過程を大切にし、互いの考え方を認め合うことができる。 ▲数の構成、分数や小数など数の概念の理解が不十分なことから、小数のわり算では、見当を付けて商の答えを出すことができず、多くの時間を要する児童がいる。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を活用し、自力解決の見通しや答えの見当を付けて課題を解決する力。
		具体的な授業改善の方策	<ul style="list-style-type: none"> ・問われていることや分かっていることに線を引くなど、問題を解く際に必要となる情報を明確にして問題文を読ませ、スモールステップを積み重ねることで、「できた」という達成感を味わわせる。
	年度末	第5学年における児童の達成度と第6学年に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ○自力解決の時間を確保することで、答えにたどり着くまでの過程を大切にし、互いの考え方を認め合うことができた。 ▲四則演算を苦手としている児童が多く、分数や小数の計算でも、多くの時間を要してしまう児童がいる。また、割合などの計算では、意味を考えずに計算して間違えてしまう児童が多い。
令和6年度第6学年	平成6年10月	学習に関する児童の実態・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に意欲は高い。7割程度、基礎基本が定着している。 ▲分数の約分をし忘れたり、不十分さが目立った。 ○公約数、単位量あたりの大きさ、人口密度、割合の定着が低い。
		教科で身に付けさせたい資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的基本的な計算力 ・グラフや図などを通じて数の大小や、どのくらいの量か把握する力。 ・既習事項を使って問題解決の見通しをもとうとする力。 ・スモールステップを積み重ね、「できた」という達成感を味わわせる。自力解決しようとする意識を高め、算数への苦手意識の払拭を図る。
		具体的な授業改善の方策	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の定着が不十分な内容を、宿題や授業の中で身に付けられるよう、復習の時間を確保していく。また、習熟度別にクラスを分けることで授業の時間配分を工夫していく。 ・数直線のかき方について、継続して指導し、継続的に使う。
	年度末	小学校6年間のまとめと中学校への引継事	<ul style="list-style-type: none"> ・「できた」という経験が増え、苦手意識の払拭につながってきた。